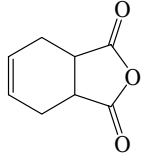
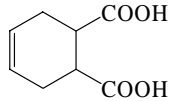
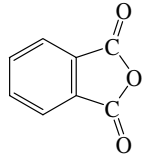
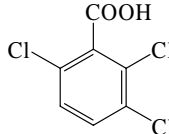
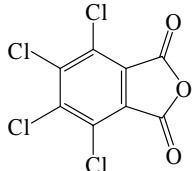
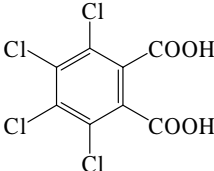


K - 1 4 7 6 変化物の類似物質表

化合物名 (CAS 番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K- 番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
<i>cis</i> -1,2,3,6-テトラ ヒドロフタル酸無水物 (935-79-5)		3-3435 (K-947)	標準(4W) 1991年実施 BOD 0, 0, 0 (0) TOC 0, 0, 0 (0) G C 100,100,100(100)	難分解性 (1991)	/	/	4-シクロヘキセン-1,2- ジカルボン酸から類推	高濃縮性 ではない (1991)
4-シクロヘキセン- 1,2-ジカルボン酸 (88-98-2)		3-3316 (K-263)	標準(2W) 1976年実施 BOD 3, 3 (3) TOC 0, 0 (0) G C 0, 2 (1) 逆転(4W) 1978年実施 BOD 0, 0 (0) TOC 6, 0 (3) G C 15, 16 (15) HPLC 9, 18 (14)	難分解性 (1978)	/	600 (48hr)	1979 年実施 1 区(2.0mg/L) : <0.2 2 区(0.2mg/L) : <2 脂質含有率 -	高濃縮性 ではない (1979)
無水フタル酸 (85-44-9)		3-1344 (K-126)	標準(2W) 1975年実施 BOD 87, 83 (85) TOC 91, 96 (93) U V(280nm)96, 97 (96)	良分解性 (1978)	/	/	/	/
2,3,6-トリクロロ安息 香酸 (50-31-7)		3-2987 (K-563)	標準(4W) 1987年実施 BOD 0, 2, 0 (1) TOC 0, 0, 0 (0) GC-MS 0, 1, 0 (0)	難分解性 (1987)	0.70 ~ 0.97 (フラスコ振とう法)	417 (48hr)	1988 年実施 1 区(293 µg/L) : <0.4 2 区(29.3µg/L) : <3.5 脂質含有率 5.1%	高濃縮性 ではない (1988)
3,4,5,6-テトラクロロ フタル酸無水物 (117-08-8)		3-1423 (K-1476)	標準(4W) 2002年実施 BOD 0, 0, 0 (0) TOC 0, 0, 1 (0) HPLC 100,100,100(100) [テトラクロロフタル酸を生成 し、残留した。]	難分解性 (2002)	4.65 ^{*1}	/	テトラクロロフタル酸から 類推	
テトラクロロフタル 酸 (2136-79-0)		3-0062 (K-1476 変化物)	/	/	2007 年実施 3.2 (HPLC 法) ^{*2}	/	分配係数から類推	

*1 Kowwin v 1.67 による計算値。

*2 溶離液 : メタノール / pH1.0 緩衝液(7/3 V/V)

整理番号 K-1587 (NEDO 114, 2-2795)	分解度試験		備考 3. 特記事項 被験物質は試験液中で消失し、臭化物イオンが 20~2%、アンモニア態窒素が 50~53% 生成し、残留した。 変化物 (LC-MS による推定) として ①2-ブロモプロパンジアミド、②2,2-ジブロモプロパンジアミド、③2-ブロモ-2-シアノアセトアミド、④2,2-ジブロモアセトアミドが生成し、残留した。 ① $\text{H}_2\text{NOC}-\underset{\text{Br}}{\overset{\text{H}}{\text{C}}}-\text{CONH}_2$ ② $\text{H}_2\text{NOC}-\underset{\text{Br}}{\overset{\text{Br}}{\text{C}}}-\text{CONH}_2$ ③ $\text{NC}-\underset{\text{Br}}{\overset{\text{H}}{\text{C}}}-\text{CONH}_2$ ④ $\text{H}-\underset{\text{Br}}{\overset{\text{Br}}{\text{C}}}-\text{CONH}_2$ ①~④は試薬が入手できなかった。また、HPLC クロマトグラム上の保持時間から、①~④は被験物質より極性が高い。後続試験は被験物質で実施した。 HPLC クロマトグラムの保持時間 (分) 被験物質 4.2 変化物① 1.8 変化物② 2.2 変化物③ 2.3 変化物④ 2.6
2-シアノ-2,2-ジブロモアセトアミド (10222-01-2)	契約	13年 3月 28日	
	試験期間	13. 9.28~13.12.18	
	試験装置	① 揮	
構造式 (示性式) ・物理化学的性状 $\text{N}\equiv\text{C}-\underset{\text{Br}}{\overset{\text{Br}}{\text{C}}}-\overset{\text{O}}{\parallel}{\text{C}}-\text{NH}_2$ 分子式 C ₃ H ₂ Br ₂ N ₂ O 分子量 241.87	試験濃度		
	被験物質 100 mg/L		
	汚泥 30 mg/L		
	本試験期間 4 週間		
	試験結果	間接	
	直接	TOC 20, 14, 10 (15)% HPLC 100, 100, 100(100)%	
純度* ¹ 98.0%	外観* ¹ 白色粉末		
不純物* ¹ (物質名, 含有率) 残り 0.2%については不明	溶解度 (対水, その他) 対水 変化のため測定不可 対アセトニトリル 100 g/L 以上		
融点* ¹ 124.0~125.6℃	審査部会 第 11 回 14年 1月 29日開催		
沸点 測定不可(160℃付近で黄色に変色)	判定 難分解性		
比重 2.377 g/cm ³ (25℃)	備考 1. 回収率* (水+被験物質)系 100% (汚泥+被験物質)系 100% ※試験液を直接分析機器に導入。 2. 実施機関 ・財団法人 化学物質評価研究機構		
LD ₅₀ * ¹ 235 mg/kg(経口, ラット) >2000 mg/kg(経皮, うさぎ)	1-オクタノール/水分配係数 log Pow = 0.5 (HPLC法)* ²		
IRチャートの有無 ① 有 ・ 無	解離定数 試験溶液中では非解離の状態 で存在すると推定される。		
用途			
生産量* ³ (16年) 製造及び輸入 100~1,000 t 未満			
試料			
経済産業公報発表年月日	年 月 日		

*1 提供先添付資料による。

*2 溶離液:メタノール/りん酸緩衝液(pH7.0)(40/60 V/V)

*3 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査による。

濃縮度試験					事業対象年度 平成18年度					濃縮度試験											
試験期間					18.11.13 ~ 18.11.28					試験期間					. . . ~ . . .						
試験装置 標・揮		LC50値			mg/L(hr)魚種()					試験装置 標・揮		LC50値			mg/L(hr)魚種()						
水槽設定濃度 ()										水槽設定濃度 ()											
被験物質		分散剤			被験物質		分散剤			被験物質		分散剤									
第1濃度区					第1濃度区					第1濃度区											
第2濃度区					第2濃度区					第2濃度区											
第3濃度区					第3濃度区					第3濃度区											
濃縮倍率		脂質含有率			開始前		% 魚種()			濃縮倍率		脂質含有率			開始前		% 魚種()				
		終了後			日後		日後					終了後			日後		日後				
第1	水槽濃度 ()					第1		水槽濃度 ()						第1		水槽濃度 ()					
	倍率					第1		倍率						第1		倍率					
第2	水槽濃度 ()					第2		水槽濃度 ()						第2		水槽濃度 ()					
	倍率					第2		倍率						第2		倍率					
第3	水槽濃度 ()					第3		水槽濃度 ()						第3		水槽濃度 ()					
	倍率					第3		倍率						第3		倍率					
審査部会 第66回 19年 7月 27日 開催					審査部会 第 回 年 月 日 開催																
判定結果										判定結果											
備考										備考											
分配係数から類推																					
[実施機関] 財団法人 化学物質評価研究機構																					

毒性試験	
依頼	年月日

経過

K - 1 5 8 7 の類似物質表

化合物名 (CAS 番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
ホルムアミド (75-12-7)	$\begin{array}{c} \text{O} \\ \parallel \\ \text{HCNH}_2 \end{array}$	2-0681 (K-165)	標準(3W) 1976年実施 BOD 16, 29 (23) TOC 82, 78 (80) G C 100, 100 (100)	良分解性 (1976)				
アセトアミド (60-35-5)	$\begin{array}{c} \text{O} \\ \parallel \\ \text{CH}_3\text{C}-\text{NH}_2 \end{array}$	2-0724 (K-1540)	標準(2W) 2001年実施 BOD(NH ₃) 67, 69, 70 (69) TOC 100, 100, 100(100) HPLC 100, 100, 100(100)	良分解性 (2001)				
アクリルアミド (79-06-1)	$\begin{array}{c} \text{H}_2\text{C}=\text{CH}-\text{C}-\text{NH}_2 \\ \parallel \\ \text{O} \end{array}$	2-1014 (K-33)	標準(4W) 1998年実施 BOD 84, 71, 55 (70) TOC 89, 86, 74 (83) HPLC 100, 86, 75 (87) 逆転(2W) 1998年実施 (参考データ) TOC 98, 100, 100 (99) HPLC 100, 100, 100(100)	良分解性 (1998)				
2 - シアノ - 2 , 2 - ジブロモアセト アミド (10222-01-2)	$\begin{array}{c} \text{Br} \\ \\ \text{N}\equiv\text{C}-\text{C}-\text{C}-\text{NH}_2 \\ \quad \parallel \\ \text{Br} \quad \text{O} \end{array}$	2-2795 (K-1587)	標準(4W) 2001年実施 BOD 0, 0, 0 (0) TOC 20, 14, 10 (15) HPLC 100, 100, 100(100)	難分解性 (2002)	2006 年実施 0.5 (HPLC 法)		分配係数から類推	

整理番号 K-1628 (NEDO 361, 2-0390)	分解度試験	分解度試験	分解度試験
ビス(2-ジメチルアミノエチル)エーテル (3033-62-3)	事業対象年度 平成18年度	契約年月日	契約年月日
	試験期間 18. 7. 24~18. 11. 13	試験期間 . . . ~ . . .	試験期間 . . . ~ . . .
	試験装置 (標) ・ 揮	試験装置 標 ・ 揮	試験装置 標 ・ 揮
構造式 (示性式) ・ 物理化学的性状 $\begin{array}{c} \text{CH}_2\text{CH}_2\text{N}(\text{CH}_3)_2 \\ \\ \text{O} \\ \\ \text{CH}_2\text{CH}_2\text{N}(\text{CH}_3)_2 \end{array}$ 分子式 C ₈ H ₂₀ N ₂ O 分子量 160.26	試験濃度	試験濃度	試験濃度
	被験物質 100 mg/L	被験物質 mg/L	被験物質 mg/L
	汚泥 30 mg/L	汚泥 mg/L	汚泥 mg/L
	本試験期間 4 週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間
	試験結果	試験結果	試験結果
純度 ①99.5%(GC)* ¹ ②98.6%(GC)* ²	間接 BOD 0, 0, 0 (0)%	間接	間接
外観 無色透明液体	直接 TOC 2, 3, 4 (3)%	直接	直接
	直接 LC-MS 6, 7, 0 (4)%	直接	直接
不純物 (物質名, 含有率) ①残り 0.5%は不明* ¹ ②残り 1.4%は不明* ²	溶解度 (対水, その他) 対水 100g/L 以上(25°C) (フラスコ法)	審査部会 第 66 回 19年 7月 27日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催
融点 -70.5°C	1-オクタノール/水分配係数 log Pow = 1.1 (HPLC法)* ⁴	判定	判定
沸点* ³ 189°C	解離定数* ⁵ pKa ₁ = 7.6 pKa ₂ = 10.1	備考 1. 回収率* (水+被験物質)系 100% (汚泥+被験物質)系 100% ※試験液を直接分析機器に導入。	備考
密度* ³ 0.841g/cm ³		2. 実施機関 ・財団法人 化学物質評価研究機構	
LD ₅₀ * ³ 1,070mg/kg(oral, rat)		3. 特記事項 ・開始時に pH 調整を行った。	
IRチャートの有無 (有) ・ 無			
用途			
生産量 (年)			
試料 購入先 ①Lancaster Synthesis ②Fluorochem			
経済産業公報発表年月日 年 月 日			

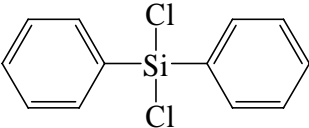
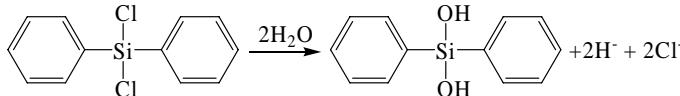
*1 Lancaster Synthesis 添付資料による。 *2 Fluorochem 添付資料による。 *3 Sigma-Aldrich Material Safety Data Sheets (Version 1.1)による。
 *4 溶離液：メタノール/りん酸緩衝液(pH11.0)(1/1 V/V) *5 http://www.huntsman.com/performance-products/Media/Amine_Apps_&Properties_Dataによる。
 ①分解度試験及び物理化学性状試験 ②分配係数試験

濃縮度試験 事業対象年度 平成18年度					濃縮度試験					毒性試験 年月日		
試験期間 18.12.1 ~ 18.12.13					試験期間 . . . ~ . . .							依 頼
試験装置 標・揮		LC50値 mg/L(hr)魚種()			試験装置 標・揮		LC50値 mg/L(hr)魚種()			経過		
水槽設定濃度 ()					水槽設定濃度 ()							
被験物質		分散剤			被験物質		分散剤					
第1濃度区					第1濃度区							
第2濃度区					第2濃度区							
第3濃度区					第3濃度区							
濃縮倍率		脂質含有率 開始前 終了後 % 魚種()			濃縮倍率		脂質含有率 開始前 終了後 % 魚種()					
		日後	日後	日後	日後	日後	日後	日後	日後			日後
第1	水槽濃度()											
	倍率											
第2	水槽濃度()											
	倍率											
第3	水槽濃度()											
	倍率											
審査部会 第66回 19年 7月 27日 開催					審査部会 第 回 年 月 日 開催							
判定結果					判定結果							
備考 分配係数から類推 [実施機関] 財団法人 化学物質評価研究機構					備考							

K - 1 6 2 8 の類似物質表

化合物名 (CAS 番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC ₅₀ mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
ジメチルエーテル (115-10-6)		2-0360 (K-909)	標準(4W) 1990年実施 BOD 0, 1, 0 (0) TOC 6, 8, 10 (8) G C 5, 6, 9 (7)	難分解性 (1990)	1991年実施 0.20 (フラスコ振とう法)	/	分配係数から類推	高濃縮性 ではない (1991)
ジエチルエーテル (60-29-7)		2-0361 (K-114)	標準(4W) 1984年実施 TOC 5, 0 (2) G C 13, 0 (6)	難分解性 (1984)	/	>1g/L (48hr)	1985年実施 1区(500µg/L): 0.9~1.4 2区(50µg/L): <1.7~9.1 脂質含有率 4.8%	高濃縮性 ではない (1985)
イソプロピルエーテル (108-20-3)		2-0362 (K-1090)	標準(4W) 1994年実施 BOD 0, 0, 0 (0) G C 8, 8, 8 (8)	難分解性 (1994)	1997年実施 1.64 (フラスコ振とう法)	/	分配係数から類推	高濃縮性 ではない (1997)
n-ブチルエーテル (142-96-1)		2-0363 (K-453)	標準(4W) 1985年実施 BOD 4, 3, 3 (3) G C 0, 0, 0 (0)	難分解性 (1985)	1986年実施 3.35 (フラスコ振とう法) 2004年実施 3.6 (HPLC法)	30.7 (48hr)	1986年実施 1区(200µg/L): 47~83 2区(20µg/L): 30~114 脂質含有率 4.6%	高濃縮性 ではない (1986)
ジイソペンチルエーテル (544-01-4)		2-0365 (K-454)	標準(2W) 1980年実施 BOD 14, 10, 0 (8) G C 1, 3, 2 (2)	難分解性 (1980)	1982年実施 4.25 (フラスコ振とう法) 2004年実施 4.8 (HPLC法)	4.7 (48hr)	1982年実施 1区(60µg/L): 117~313 2区(6µg/L): 84~260 脂質含有率 5.7%	高濃縮性 ではない (1983)
ビス(2-ジメチルア ミノエチル)エーテル (3033-62-3)		2-0390 (K-1628)	標準(4W) 2006年実施 BOD 0, 0, 0 (0) TOC 2, 3, 4 (3) LC-MS 6, 7, 0 (4)		2006年実施 1.1 (HPLC法)*	/	分配係数から類推	

* 溶離液 : メタノール/りん酸緩衝液(pH11.0)(1/1 V/V)

整理番号 K-1640 (NEDO207,3-2634)	分解度試験	分解度試験	分解度試験
ジクロロジフェニルシラン (80-10-4)	事業対象年度 平成16年度	契約年月日	契約年月日
	試験期間 16.11.4~16.12.28	試験期間 . . . ~ . . .	試験期間 . . . ~ . . .
	試験装置 (標)・揮	試験装置 標・揮	試験装置 標・揮
構造式(示性式)・物理化学的性状  分子式 C ₁₂ H ₁₀ Cl ₂ Si 分子量 253.20	試験濃度	試験濃度	試験濃度
	被験物質 100 mg/L	被験物質 mg/L	被験物質 mg/L
	汚泥 30 mg/L	汚泥 mg/L	汚泥 mg/L
	本試験期間 4週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間
	試験結果	試験結果	試験結果
間接	BOD 0, -1, 0 (0)%	間接	
直接	G C 100, 100, 100(100)%	直接	
純度*1 100.0%	外観 無色澄明液体		
不純物(物質名, 含有率)	溶解度(対水, その他) 対水 水中変化のため測定不可	審査部会 第47回 17年9月30日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催
融点*2 -22℃		判定 難分解性	判定
沸点*3 304~305℃	1-オクタノール/水分配係数 log Kow = 5.06*4	備考 1. 回収率(ジフェニルシランジオール) (水+被験物質)系 101% (汚泥+被験物質)系 104% 2. 実施機関 ・株式会社 日本医学臨床検査研究所 3. 特記事項 ・被験物質は試験液中で全て加水分解し、ジフェニルシランジオール(3-2638, logKow=2.03*4)を99~107%生成し、残留した。 	
比重*3 d ₄ ²⁵ 1.218			
LD50	安定性		
IRチャートの有無 (有)・無			
用途			
生産量 (年)			
試料 購入先 和光純薬工業			
経済産業公報発表年月日	年 月 日		

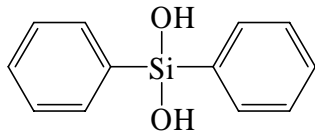
*1 和光純薬工業添付資料による。

*2 Hazardous Substances Data Bank(U.S. National Library of Medicine)(2002/5)による。

*3 有機化合物辞典(講談社)による。

*4 Kowwin v 1.67による計算値。

濃縮度試験						濃縮度試験						毒性試験			
試験期間 ~						試験期間 ~						依 頼	年 月 日		
試験装置 標・揮		LC50 値 mg/L(hr)魚種()				試験装置 標・揮		LC50 値 mg/L(hr)魚種()					経過		
水槽設定濃度 ()						水槽設定濃度 ()									
被験物質		分散剤				被験物質		分散剤							
第1濃度区						第1濃度区									
第2濃度区						第2濃度区									
第3濃度区						第3濃度区									
濃縮倍率		脂質含有率		開始前 終了後		濃縮倍率		脂質含有率		開始前 終了後					
		日後		日後				日後		日後					
第1	水槽濃度 ()						第1	水槽濃度 ()							
	倍率							倍率							
第2	水槽濃度 ()						第2	水槽濃度 ()							
	倍率							倍率							
第3	水槽濃度 ()						第3	水槽濃度 ()							
	倍率							倍率							
審査部会 第66回 19年 7月 27日 開催						審査部会 第 回 年 月 日 開催									
判定結果						判定結果									
備考						備考									
ジフェニルシランジオールの分配係数から類推															

整理番号 K-1640 変化物 (NEDO207 変化物, 3-2638)		分解度試験		分解度試験		分解度試験	
ジフェニルシランジオール (947-42-2)		契約 年 月 日		契約 年 月 日		契約 年 月 日	
試験期間 . . . ~ . . .		試験期間 . . . ~ . . .		試験期間 . . . ~ . . .		試験期間 . . . ~ . . .	
試験装置 標 ・ 揮		試験装置 標 ・ 揮		試験装置 標 ・ 揮		試験装置 標 ・ 揮	
構造式 (示性式) ・ 物理化学的性状  分子式 C ₁₂ H ₁₂ O ₂ Si 分子量 216.31		試験濃度		試験濃度		試験濃度	
		被験物質 mg/L		被験物質 mg/L		被験物質 mg/L	
		汚泥 mg/L		汚泥 mg/L		汚泥 mg/L	
		本試験期間 週間		本試験期間 週間		本試験期間 週間	
		試験結果	間接		間接		間接
直接			直接		直接		
純度*1 99.9% (GC)	外観 白色粉末	審査部会 第 回 年 月 日開催		審査部会 第 回 年 月 日開催		審査部会 第 回 年 月 日開催	
不純物*1 (物質名, 含有率) 残り 0.1%は不明	溶解度 (対水, その他) 対水 327 mg/L (25°C)	判定		判定		判定	
融点*2 140°C	1-オクタノール/水分配係数 log Pow = 2.0 (HPLC法)*3	備考		備考		備考	
沸点 測定不可							
比重*2 0.99							
LD50	安定性						
IRチャートの有無 (有) ・ 無							
用途							
生産量 (年)							
試料 購入先 東京化成工業 試薬特級							
経済産業省公報発表年月日 年 月 日							

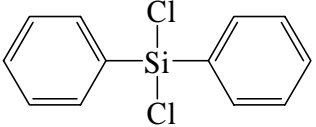
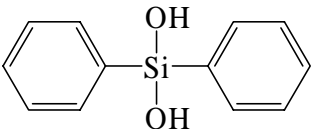
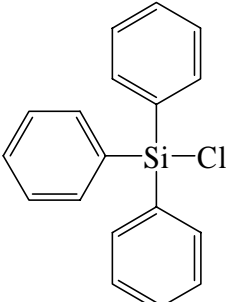
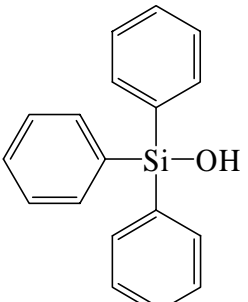
*1 東京化成工業添付資料による。

*2 <http://physchem.ox.ac.uk/MSDS/DI/diphenylsilanediol.html> による。

*3 溶離液: メタノール/精製水 (55/45 V/V)

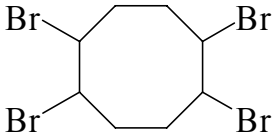
濃縮度試験 事業対象年度 平成18年度					濃縮度試験契約 年 月 日					毒性試験 年月日
試験期間 18. 8. 15 ~ 18. 8. 31					試験期間 . . . ~ . . .					
試験装置 標・揮 LC50値 mg/L(hr)魚種()					試験装置 標・揮 LC50値 mg/L(hr)魚種()					依 頼
水槽設定濃度 ()					水槽設定濃度 ()					
被験物質		分散剤			被験物質		分散剤			経過
第1濃度区					第1濃度区					
第2濃度区					第2濃度区					
第3濃度区					第3濃度区					
濃縮倍率 脂質含有率 開始前 終了後 % 魚種()					濃縮倍率 脂質含有率 開始前 終了後 % 魚種()					
日後 日後 日後 日後 日後					日後 日後 日後 日後 日後					
第1	水槽濃度()				第1	水槽濃度()				
	倍率					倍率				
第2	水槽濃度()				第2	水槽濃度()				
	倍率					倍率				
第3	水槽濃度()				第3	水槽濃度()				
	倍率					倍率				
審査部会 第66回 19年 7月 27日 開催					審査部会 第 回 年 月 日 開催					
判定結果					判定結果					
備考 分配係数から類推 [実施機関] 財団法人 化学物質評価研究機構					備考					

K - 1 6 4 0 変化物の類似物質表

化合物名 (CAS 番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC ₅₀ mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
ジクロロジフェニル シラン (80-10-4)		3-2634 (K-1640)	標準(4W) 2004年実施 BOD 0, -1, 0 (0) ^{*1} G C 100, 100, 100 (100) 〔ジフェニルシランジオールを 生成し、残留した。〕	難分解性 (2005)	5.06 ^{*2}		ジフェニルシランジオール から類推	
ジフェニルシランジ オール (947-42-2)		3-2638 (K-1640 変化物)			2006 年実施 2.0 (HPLC 法)		分配係数から類推	
トリフェニルクロロ シラン (76-86-8)		3-2634 (K-818)	標準(4W)1986年実施 BOD 0, 0, 0 (0) G C 100, 100, 100 (100) 〔トリフェニルシラノールを生成 し、残留した。〕	難分解性 (1986)				
トリフェニルシラ ノール (791-31-1)		3-2638 (K-818 変化物)			1986 年実施 4.96 (フラスコ振とう法)	>250 (48hr)	1987 年実施 1 区(500µg/L): 297 ~ 667 2 区(50µg/L): 491 ~ 1050 脂質含有率 4.7%	高濃縮性 ではない (1987)

*1 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0 と表記した。

*2 Kowwin v 1.67 による計算値。

整理番号 K-1715 (NEDO 287, 3-2254)	分解度試験	分解度試験	分解度試験
1, 2, 5, 6-テトラブロモシクロオクタン (3194-57-8)	事業対象年度 平成16年度	契約 年 月 日	契約 年 月 日
	試験期間 16.11.25~17.2.4	試験期間 . . ~ . .	試験期間 . . ~ . .
	試験装置 (標) ・ 揮	試験装置 標 ・ 揮	試験装置 標 ・ 揮
構造式 (示性式) ・ 物理化学的性状  分子式 C ₈ H ₁₂ Br ₄ 分子量 427.80	試験濃度	試験濃度	試験濃度
	被験物質 100 mg/L	被験物質 mg/L	被験物質 mg/L
	汚泥 30 mg/L	汚泥 mg/L	汚泥 mg/L
	本試験期間 4 週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間
	試験結果 間接 BOD -16, 2, -1 (0)%	試験結果 間接	試験結果 間接
	試験結果 直接 GC 1, 0, 1 (1)%	試験結果 直接	試験結果 直接
純度*1 98.3%	外観 白色粉末		
不純物 (物質名, 含有率) 残り 1.7%は不明	溶解度 (対水, その他) 対水 347 µg/L (25°C) (カラム溶出法) 酢酸エチル 10 g/L 以上	審査部会 第 47 回 17年 9月30日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催
融点*2 97~105°C	1-オクタノール/水分配係数 log Kow = 5.24*3	判定 難分解性	判定
沸点 測定不可	安定性 用途*4 樹脂用添加剤 (発砲ポリスチレン用難燃剤)	備考 1. 回収率 (水 + 被験物質) 系 95.7% (汚泥 + 被験物質) 系 95.1% 2. 実施機関 ・ 財団法人 化学物質評価研究機構 3. 特記事項 ・ 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。	備考
比重*2 2.37			
LD50			
IRチャートの有無 (有) ・ 無			
生産量 (年)			
試料			
経済産業公報発表年月日	年 月 日		

*1 GCによる。 *2 提供先添付資料による。 *3 Kowwin v 1.67による計算値。 *4 14705の化学商品(化学工業日報社)による。

濃縮度試験		事業対象年度 平成17年度										ピーク1					毒性試験		
試験期間		18.10.20 ~ 19. 2. 28										部位別試験 (濃縮倍率)					依 頼	年 月 日	
試験装置	Ⓢ・揮	LC50値 7.50 mg/L(96hr)魚種(ヒメダカ)										第1濃度区							
水槽設定濃度 (μg/L)												外皮 1700, 3400					経 過		
	被験物質	分散剤										頭部 3700, 6100							
		HCO-40					2-メトキシエタノール					内臓 3400, 8200							
第1濃度区	10	50					19000					可食部 1500, 2400							
第2濃度区	1	5					19000					第2濃度区							
		脂質含有率 開始前 5.07% 終了後 5.09% 魚種(コイ)										外皮 3100, ≤870*5							
濃縮倍率		ピーク1					ピーク2					排泄試験 (半減期)							
												第1濃度区 2.6日 第2濃度区 4.3日							
第1	水槽濃度 (μg/L)	11日後	21日後	34日後	47日後	60日後	第1	水槽濃度 (μg/L)	11日後	21日後	34日後	47日後	60日後	ピーク2					
	倍率	9.74	9.23	9.95	10.1	8.47		9.61	10.3	10.4	9.57	8.99	部位別試験 (濃縮倍率)						
第2	水槽濃度 (μg/L)	1.01	0.850	0.896	0.972	0.899	第2	水槽濃度 (μg/L)	0.916	0.987	0.979	0.872	0.901	第1濃度区					
	倍率	1700	2400	2800	4500	3700		2300	2700	3100	5500	4400	外皮 2000, 3600						
		1500	2300	4500	4600	2700			2300	3100	5000	5200	3800	頭部 4400, 7300					
		1900	1900	2300	2400	2600			2500	2000	2300	2800	3000	内臓 4400, 8900					
		1900	1000	2200	2900	3100			2300	1600	2500	3700	1900	可食部 1800, 3100					
		審査部会 第66回 19年 7月 27日 開催										第2濃度区							
判定結果												外皮 4800, 3000							
備考		備考										頭部 6700, 5800							
[定常状態における濃縮倍率]		第1濃度区 3900倍					第1濃度区 4700倍					内臓 10000, 6900							
		第2濃度区 2600倍					第2濃度区 2800倍					可食部 2700, 2400							
[回収率]		[定量下限濃度]					[回収率]		[定量下限濃度]					排泄試験 (半減期)					
試験水	96.5%	試験水	第1濃度区	0.35 μg/L	試験水	92.7%	試験水	第1濃度区	0.32 μg/L	第1濃度区 2.6日									
			第2濃度区	0.035μg/L				第2濃度区	0.032μg/L	第2濃度区 3.9日									
供試魚	93.1%	供試魚	280 ng/g		供試魚	84.8%	供試魚	240 ng/g											
[実施機関] 財団法人 化学物質評価研究機構		[実施機関] 財団法人 化学物質評価研究機構																	

*5 外皮重量が1.74gのときの算出可能な濃縮倍率。